

# 健康アドバイス

No.196



立川総合病院消化器センター  
外科 主任医長  
日本大腸肛門病学会指導医

蛭川 浩史

## 大腸がんの薬物療法

大腸がんの薬物療法とは、主に抗がん剤、ホルモン剤、免疫力を高める薬剤などを使う化学療法の事をさします(表1)。

化学療法には2種類あります。手術後に再発を予防するために行う補助化学療法と、手術で取り切れないがんに対する化学療法です。補助化学療法は、手術後の患者さんのうち、ステージⅢ(リンパ節転移のある大腸がん)の方に対して行われ、約3〜6カ月間続きます。

す。飲み薬だけで行う方法、点滴だけを行う方法、飲み薬と点滴をあわせた方法など、様々な方法があります。

手術でがんが取り切れない場合、がんを小さくして手術ができるようにしたり、がんの進行を抑え症状を軽くしたりすることを目的に化学療法が行われます。この場合の薬剤の組み合わせもたくさんあり、体の状態やがんの状態などを検討して方針を決めます。

化学療法に用いられる抗がん剤は、主に細胞が増えるための遺伝

子の働きや蛋白質の合成などをブロックするため、増殖が早いがん細胞だけではなく、正常な細胞もやられてしまいます。髪が抜けるのはこのためです。

最近では、分子標的薬という新しい治療薬も使用されます。分子標的薬は、がん細胞が増えるための特異的な因子や、がん細胞内の分子に直接働くため効果が高く、単独や従来抗がん剤との併用で飛躍的に治療成績が伸びました。

一昔前にくらべ、大腸がんの化学療法は、治療効果も副作用についても格段に進歩しました。多くの患者さんは、日常生活を送りながら外来で化学療法を受けることができますようになりました。再発したらもう終わり、と考えがちが大腸がんでも、抗がん剤治療により再発巣を小さくして切除できれば、治癒することも稀ではありません。

薬物療法の副作用はだるさ、吐き気、下痢、手足のしびれ、骨髄抑制など、抗がん剤の種類や、患者さんの体質により変わります。副作用に対しては、様々な薬の開発もすすみ、十分な対応ができるようになってきています。

化学療法を受ける場合は、担当医とよく相談して、前向きな気持ちで治療を受けましょう。

表1 大腸がんの薬物療法に使用される薬

種類	抗がん剤	併用方法の例
抗がん剤	フルオロウラシル	フォルフォックス (FOLFOX) 療法 フォルフィリ (FOLFIRI) 療法
	カペシタビン	ゼロックス (XELOX) 療法
	ユーエフティ	ユーエフティ・ユーゼル (UFT/UZEL) 療法
	ティーエスワン	ソックス (SOX) 療法
	オキサリプラチン	フォルフォックス (FOLFOX) 療法 ゼロックス (XELOX) 療法 ソックス (SOX) 療法
	イリノテカン (CPT-11)	フォルフィリ (FOLFIRI) 療法 ゼリリ (XELIRI) 療法
分子標的薬	ベバシズマブ ラムシルマブ アフリベルセプト	
	セツキシマブ パニツムマブ	
	レゴラフェニブ トリフルリジン	